

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-3		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500769&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500769&amp;SCD=320</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残された感情と食欲を大切に、季節感のある干し柿、梅干し、干し芋などを作って、作る楽しみ食べる楽しみを共有しています。古民家改修型のホームである建物はロフト、地下室があったりと変化に富み大家族が集うホームにぴったりの住宅である。中庭を食堂と廊下がコの字型に囲み日当たり良好、すぐに中庭テラスへと気軽に出入られる環境にある。中庭の続きは専用畑があり、季節の野菜や花を職員と共に育て収穫を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に、同一法人の特別養護老人ホーム・デイサービスなど複数の介護施設がある。また、4月からは職員の子供が通う保育所が開所し、グループホームにとっては子供たちと触れ合うことの出来る生活環境も整備された。ホームの周囲には住宅が隣接し、身近に地域住民とも交流を図ることができる。民家改修の木造平屋建てのホームは、玄関を入ると、適度な段差と和室・洋室共に備えた馴染みの間取りで、自宅に戻ったような落ち着きと、ゆったりした時間を感じる。利用者の残存能力を見つけ、料理の味付けを確認してもらったり、花や野菜作りを教えてもらうなど、細やかな個別の自立支援を職員は実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「Yes,we can!なんでも言ってください。私たちも一緒にがんばります。」のフェニックスグループの理念が名札の裏側に入っているため、いつでもみることが出来、職員は常にその思いを持ち利用者のケアにあたっている。	法人全体の理念には「何でも言ってください」があり、新たなホームの理念として「とにかくやってみよう」を掲げている。	ホームの理念「とにかくやってみよう」に「地域と共に」を加えるなど、もう少し、地域密着型施設としての実践につながるような具現化した理念を検討されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会が行う溝掃除、左義長、子供みこし、隣接しているプラザ&メゾンでの行事の参加や夏祭りの時は地域の子供たちやボランティアの方々と交流出来ている。	犬の散歩や畑仕事をしている近隣者と、職員が率先して挨拶を交わすよう心がけている。それがきっかけで花の種をもらうなどの交流が生まれている。また、自治会主催の地域活動に参加したり、法人の行事に地域の人々を招いて一緒に楽しむなど、地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し地域の方々に認知症への理解、対応を利用者の生活を通し伝えている。また複合施設内の包括支援センターが地域に向けて定期的に勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では3カ月に1回外部の方と事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、報告や情報交換にとどまらず会議メンバーから率直な意見を頂きサービス向上に活かせるようにしている。	同一敷地内の地域密着型3施設と合同で、3ヶ月に1回、利用者、家族、近隣有識者、行政担当者等が参加し、運営推進会議が開催されている。それぞれの施設からの報告、情報交換、改善課題に基づき、意見交換が行われている。	2ヶ月に1度の運営推進会議の開催を実践するために、ホーム独自で、中間に1度開催されることを提案するとともに、近隣ケアの人や地域包括支援センターなど身近な人の参加を呼び掛けるなど、検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて地域との関わり、入居者状況、危機管理、ヒヤリハット、ほっと報告の内容など細かく報告し意見を頂いている。	行政の窓口まではなかなか出向けないが、運営推進会議以外でも、担当者に相談に乗ってもらったり、連携を図るため、電話で相談するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中の施錠は基本的には行っていないが、利用者の状況によっては安全面を重視し一定時間施錠する場合もある。	身体拘束は行っていない。転倒などのリスクはあるが、手すりを設置するなどの予防対策を行い、自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員に周知できるよう常にカンファレンスで知識を得て防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム暖家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の勉強会等で知識は得ているが、今のところ必要とする方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明をさせて頂き、安心して生活して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。また運営推進会議には家族、利用者の参加もあり意見・要望を出して頂く機会を設けている。	通例は毎年行事を兼ねて年2回開催している家族会は、インフルエンザの予防対策で休止しているが、面会時に家族から聞き取りをしている。忌憚のない意見交換が交わされ、全体会議にかけたり、運営推進会議に諮り、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週火曜日13:30～運営推進会議が行われている。理事長をはじめ各事業所代表職員が出席。意見、相談、提案を話し合える内容である。	法人全体の運営会議が毎週開催されており、理事長はじめ各事業所の代表が出席している。ホームの状況、利用者の対応方法など具体的な相談や提案が話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況など把握し、各自が向上心を持ち働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や委員会に参加しスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流や合同カンファレンスの実施、グループホーム協議会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを収集し、それをもとに安心と信頼していただける関係を築くため耳を傾け和んで頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など何でも話して頂けるよう日頃から信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	穏やかに過ごして頂けるよう「その時」にあったケアの仕方や安心感を持って頂けるよう、コミュニケーションを密にとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一対一で関わる必要のある方とそうでない方がいるが、一緒に過ごせる機会を多く持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のこだわり、苦しみ、喜びを受け止め本人の生活を共に支援していくようにしている。面会時や電話にて報告、相談に心掛ける。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の法事、墓参り等の外出や仲の良いお友達の面会、お友達との外出など積極的に支援し面会に来られた時はおもてなしの心を忘れず対応している。	利用者個々の馴染みの関係継続支援を実践している。利用者がしたいこと、して欲しいことを聞き取り、家族の協力を得て希望に添えるよう取り計っている。利用者は、近隣出身のため、家族や知人が面会に来やすく和やかである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方に合わせた話しかけ、対応に配慮しつつ利用者間の関わり合いに努めている。		

岐阜県 グループホーム暖家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要時応じて相談や支援ができる関係作りを心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに基づき生活歴を把握した上で家族、利用者と日々のコミュニケーションを深め、希望、意向を聞き出せる様努力している。	生活歴やアセスメントをもとに、一人ひとりの思い・意向を把握し、大切に、介護に生かしている。また、寄り添った介護から日常の言葉や様子を観察し、気持ちを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの聞き取りにより本人が安らかに、また有する力を発揮しながら自分らしく暮らしていけることに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見しケアプランにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンスにて情報共有。ご家族の希望も聞き本人の出来ることを重視し、専門職(PT,OT,Ns)のモニタリングやアドバイスも取り入れ作成している。	毎月1回、ケアカンファレンスを行い、職員が話し合い、介護計画書の見直しを行っている。利用者の状態や希望、家族の要望も取り入れ、法人の専門職からのアドバイスも受け、個々に適した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期カンファレンスにて情報を共有している。介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の経営する施設、喫茶等が周囲に隣接し利用できるため、モーニングやランチを楽しむことができる。		

岐阜県 グループホーム暖家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署には避難訓練、消火訓練等の協力を得ている。近隣施設との交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者9名全員関連医療機関がかかりつけ医となっている。1回/W、Drの往診あり。前日にNsの訪問もあり相談、報告している。また24時間連携を取っておりいつでも連絡出来る仕組みがある。	現在は、利用者全員が希望し、母体である医療法人がかかりつけ医となっており、毎週の訪問看護と、その翌日に訪問診療を行っている。認知症専門医の受診、歯科受診も職員が付き添い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設Ns、訪問Nsに報告、相談、迅速な対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際は本人のストレスや負担を軽減するため家族と相談しDr、Nsと連携を図り、早期退院に向け取り組む体制が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	再開後、重度化の方がいないが、必要性が高まればご家族、Dr、Nsと話し合いの場を持ち支援体制を整える仕組みはある。	入居の際、事前に、重度化した場合は住環境面でサービスの対応に制限がある旨説明をしている。ただ、本人、家族がホームでの終末を希望される場合は、専門職とも話し合い、最善の方向で協議していく姿勢でいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会への参加。全体カンファレンス、ユニットカンファレンスでの話し合い、学習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、災害時また昼・夜を想定した避難訓練を行っている。避難場所として隣接施設プラザ&メゾンに協力をお願いし近隣施設職員とも協力し訓練も実施できている。	法人合同の火災訓練・地震災害訓練を、毎年実施している。職員の異動もあり、新人職員も含め、夜間の火災時に素早く利用者が避難できる訓練を重視し、今後も実施していく方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしているが、難聴の方もありつい大きな声になるのを職員間で注意している。	プライバシー保護の取り組みを、職員が理解し共有している。利用者のこれまでの生活歴を十分に理解し、声掛けや介護の姿勢に尊敬の念と思いやりがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思表示の出来る方に対してはそれを尊重し、困難な方には選んでもらうなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを尊重し出来るだけ実現するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ本人の思いをかなえるようにしている。髪の毛のカットは法人内の美容室を利用する方や、外出も兼ねて行きつけの所でカットされることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は業者委託しているが、味噌汁、ご飯はホームで準備し味噌汁作りや盛り付けは出来る利用者と共に行っている。月1回の自由メニューの日には好みを聞き利用者と楽しく作る喜びを感じている。	自家製野菜をみそ汁の具にしたり、おやつを利用者と一緒に作るなど、利用者が出来る範囲で参加し楽しむことが出来るよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては栄養士にサポートして頂き、偏りのないようにしている。食事量は全員チェック、水分量は必要に応じてチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼は個別にて、夜は全員行っている。介助が必要な方には支援している。定期的に義歯洗浄をしている。		

岐阜県 グループホーム暖家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を基本にコストの負担も考えその方にとって一番よいものを提供するようにしている。日中、夜間尿量が異なる方にはオムツの使い分けを行っている。	排泄機能指導士の資格を持つ職員が2名おり、利用者ごとの対応を試み、オムツは最小限の利用で済むよう取り組んでいる。日中は、トイレ誘導を基本に日常生活動作の維持、自立支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操など体を動かす機会を多くしている。ヤクルト、ヨーグルト、繊維質の多いものを摂ったりトイレ時には腹部マッサージを行うなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	火・金の2回/w、複合施設の浴室へ先頭気分で行っている。入浴前にバイタル測定を行い、表情、体調の確認を行っている。	ホーム内に個浴の浴槽もあるが、新しく出来た隣接するデイサービスの浴槽を利用している。明るく広い空間は、気分転換にもなり、利用者を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫し夜間良眠出来るようにしているが、眠れない時には話を聞く、飲み物を差し上げるなどの対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬の目的、副作用、用法、用量について理解し必ず飲み込むまで確認している。状態に変化があれば上司又はかかりつけNsに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を大切にその方らしい暮らしが出来るよう支援している。役割を見つけ活躍できる場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣施設への訪問や散歩など本人の希望に沿って実施している。先日の運営推進会議に出席した利用者が温泉に行きたいと要望を出された。実現できる様努力したい。	法人の敷地は広く、その中での散歩や他施設への訪問が日常的に行われている。ドライブ、花見、スーパーやドラッグストアなど、利用者の希望に沿った支援も行われ、家族の協力も得られている。	



岐阜県 グループホーム暖家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨年末までは自己管理出来る方がいたが現在はいない為全員預かりとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ家庭的な環境を作っている。強い日差しにはカーテンを使用している。中庭を眺める廊下、食堂からは鳥の姿や猫の訪問も確認でき利用者の目を楽しませている。	民家を改修した建物のため、利用者は自分の家にいるような感覚で生活できる。広く明るい廊下にはソファが置かれ、利用者が集まってくる。窓越しに見える中庭は季節の移ろいが感じられ、畑も広く農作物が作られている。隣の家が眺められ、落ち着いて安心して暮らせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい廊下にソファが置いてあり座って庭の花を観たり音楽を聴いたり、横になったりと、おもいおもいに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが居室には使い慣れた家具、生活用品、家族の写真等持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。	居室の作りはそれぞれの部屋に個性があり、画一的な作りでないため、自分の部屋という感覚が持てる。自由に部屋作りはできるが、布団、枕、リネンはレンタルされており、定期的に交換され清潔が保もたれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下に合わせて要所に手摺りなど設置をPTの指導により行っている。また転倒の危険がある方には動きを察知できるような鈴をつけたりと工夫し、居室の分からない人には名札を付けている。		